

③ 安心・安全の確保への関心の高まり

大型台風や集中豪雨、地震などの自然災害が多発していることや、南海トラフ巨大地震への懸念など、災害に備えた強^{きょうじん}靱なまちづくりが必要です。また、子どもや高齢者を狙った犯罪、悪質な運転による交通事故など、身の回りで発生する事件や事故が多様化・複雑化するとともに、新型インフルエンザ等※1新たな感染症への対応など、安心・安全対策の拡充が求められています。

④ 環境問題に対する意識の高まり

世界的な人口の増加や経済活動の拡大に伴う地球温暖化※2や生態系の破壊など、地球規模での環境問題の深刻化を背景として、環境への関心は高まりを見せており、東日本大震災を契機とした再生可能エネルギー※3の利用や省エネルギーなどの取組も注目されています。

環境問題の根底には、社会経済活動や人々の生活スタイルの変化といった現代社会特有の要因があり、環境負荷の少ない循環型・低炭素社会※4を実現するため、家庭、地域、事業者および行政がそれぞれの立場で行動していくことが求められています。

⑤ 雇用・労働環境の確保、高度情報技術の進展

経済活動のグローバル化※5が進む中、製造業の生産拠点の海外移転や外資系企業の国内進出等産業構造が変化しています。

また、少子高齢化の進行、団塊の世代の退職などにより、労働力人口※6の減少が現実となる中、女性や高齢者、外国人雇用のあり方など、労働環境の改善・整備が求められています。

さらに、スマートフォンが個人の生活に深く浸透するなど、IoT※7技術が身近なものになるとともに、AI※8などさまざまな技術開発が急速に進んでおり、経済・社会、まちづくりなど多方面にわたる活用が求められています。

※1 新型インフルエンザ等…新型インフルエンザは、毎年流行を繰り返してきたインフルエンザウイルスとウイルスの抗原性が大きく異なる新型のウイルスが出現することにより、およそ10年から40年の周期で発生している。ほとんどの人が新型のウイルスに対する免疫を獲得していないため、世界的な大流行（パンデミック）となり、大きな健康被害とこれに伴う社会的影響をもたらすことが懸念される。また、新型コロナウイルス感染症など未知の感染症の中で、その感染力の強さから新型インフルエンザと同様に社会的影響が大きいものが発生する可能性があり、これらが発生した場合には、国家の危機管理として対応する必要がある。

※2 地球温暖化…地球表面の大気や海洋の平均温度が長期的に見て上昇する現象。

※3 再生可能エネルギー…自然界で起こる現象から取り出すことができ、一度利用しても比較的短期間に再生が可能であり、資源が枯渇しない、永続的に利用できると認められるエネルギー。例として太陽光・風力・水力・波力・地熱等がある。

※4 低炭素社会…地球温暖化の原因となる二酸化炭素等の排出を、現状の産業構造やライフスタイルを変えることで低く抑えた社会のこと。

※5 グローバル化…国家・文化・経済・政治等、人間の諸活動やコミュニケーションについて、国や地域等の地理的境界や枠組みを越えて地球規模で統合・一体化が進むこと。

※6 労働力人口…15歳以上の人口のうち、「就業者」と「完全失業者」を合わせたもの。

※7 IoT…Internet of Thingsの略語。家電、自動車などさまざまなモノに通信機能を搭載して、インターネットに接続・連携させる技術のこと。

※8 AI…Artificial Intelligenceの略語。学習・推理・判断などの人間が行っている知的な作業をコンピューター上で人工的に実現する技術。一般的に人工知能と呼ばれている。